

阿蘇海環境改善の取組について 京都府丹後広域振興局

概況

面積：約500ha、最深部約14m、典型的な閉鎖性水域
 水質は、昭和初期では外海との差がほとんどなかったが昭和30年代以降急速に水質、底質の環境悪化が進行、有機物が沈積、海底付近は無酸素、貧酸素状態

現状

阿蘇海の環境対策（浄化対策）
 <概要>
 ・これまでの各種調査、港湾シーブルー事業（覆砂）、下水道施設の整備などの取組により、顕著な悪化傾向には歯止め
 → 環境基準を下回る改善には至っていない。
 ・近年特に夏季における臭気問題が顕在化 ～住民生活・観光への影響～

取組

平成17年度 阿蘇海臭気調査実施

臭気発生確認

科学的に測定し確認

臭気原因判明

<主たる臭気>
 ◎アオサの腐敗臭
 ○カキの死臭

台風、大雨等の後の大量ゴミの流入・漂着の問題も顕在化

継続事業

府－覆砂事業等の推進

管内市町－下水道整備

平成18年度 阿蘇海臭気物質発生機構解明調査

夏季＝無酸素領域拡大、硫化水素検出

アオサ＝夏季に分布拡大
 アオサの腐敗→酸素不足→硫化水素

平成19年度 阿蘇海環境づくり協働事業

阿蘇海の環境を改善していくためには、

地域住民の方々や関係団体と行政が連携を強化し、一体となって、総合的に取り組んでいくことが必要

◆阿蘇海環境づくり協働会議の設置

- ・メンバー：学識経験者、民間団体（商工会議所、商工会、観光協会、天橋立を守る会、漁業協同組合、JA、森林組合、自治連合協議会等、婦人会）、宮津市、与謝野町、京都府（設置当初）
- ・取組内容：阿蘇海の環境改善の課題、問題点の整理、環境改善に向けての仕組みづくり、情報共有

◆19年度の活動

- ・「阿蘇海水質改善に向けた汚濁負荷源の影響評価と将来予測について」調査研究（京都大学大学院工学研究科附属流域圏総合環境質研究センターに委託）
- ・生活排水、農業用肥料等富栄養化の原因となる事項の検討
- ・ゴミ、葦等の流入に対する具体策の検討